



令和元年度

豊橋市友好訪問団報告書

令和元年12月17日（火）～12月19日（木）

【中国・南通市 友好交流事業】





目 次



1	はじめに	1
2	豊橋市友好訪問団の概要	3
3	訪問団日程	4
4	視察報告	5
5	友好訪問を終えて	17

1 はじめに

中国南通市と昭和62年5月に友好都市提携を締結してから、早や32年が経過し、時代も平成から令和へと新たな時代に入りました。

これまで、両市の親善をより一層深めるため、友好訪問団の派遣、受け入れを交互に行うほか、専門分野での交流を進めることを目的に専門分野訪問団を派遣し、専門的、実効性のある交流を行って参りました。平成29年度には提携30周年事業により、行政関係者による友好訪問団のほか市民訪問団の相互訪問も行うなど、さらなる交流友好の発展に努めたところであります。またさらには、今まで3年に一度教育交流事業として中学生を派遣していましたが、今年度より小学生の教育交流事業に変更し、次年度からも毎年の相互交流を行うことが確認されています。

こうした、これまでの両市の交流の経過を振り返り、改めて今後の交流の在り方を再確認することを主たる目的として、12月17日から19日までの3日間の行程で、私を団長、堀田副議長を副団長、団員として古川市民協創部長以下3人からなる友好訪問団を派遣することになりました。

今回の訪問では、深圳航空により中部国際空港から南通空港への直行便が再開されたことから、この便を利用することとしました。フライト時間は3時間弱、また、南通市の市街地は南通空港から高速道路を経由し車で20分程度のところにあり、これまでの上海空港からの移動時間を考えれば大幅に短縮され、時間的にも友好都市としての近さを実感することができました。

南通市役所への表敬並びに招宴を訪問2日目に予定していましたが、南通市側の事情により、招宴が移動当日になるというハプニングもありました。招宴では南通市の徐新民副市長のほか外事弁公室の部長以下3名の方々から熱烈的な歓迎を受けることとなり、南通市の豊橋市に対する友好の気持ちを実感することが出来ました。そして、その中で副市長から現在の南通市の現状についての

説明を受けるとともに、当方からも来年度以降の小学生の相互交流を改めて確認したほか、友好訪問団や専門分野訪問団の在り方について豊橋市の意向を伝えました。一方、南通市としては、今後は行政訪問団だけでなく、市民レベルの訪問やメディア交流も考えており、今後具体的な協議を進めることを確認することができました。

2日目には南通市の発展の歴史や、現在進めている中央創新区の都市開発の進展、地下鉄、高速道路や新幹線、新空港などインフラ整備などの様子を目のあたりにすることができました。今や南通市は周辺市との合併により人口 765 万人、市域は 8,000 km²と江蘇省 4 番目の都市になり、上海市との連携、世界各都市からの企業誘致、人材誘致にも力を注ぐなど、国家的なプロジェクトのもと今後の更なる発展の可能性を知ることができました。

市街地で行き交う南通市民の賑わいや人々の表情、また多くの車や電動自転車（見た目にはほとんどが電動バイクと思われる）が道狭しと走る姿を見るにつけ、国としてのスケールの大きさを感じつつ、今後どのような交流を進めていくかを改めて考える機会が持てたと同時に、今後の友好関係の絆を確認する有意義な訪問となりました。

最後に、無事に 3 日間の訪問を終え、この訪問を支えていただいた南通市外事弁公室の皆様方に深く感謝申し上げ、冒頭の言葉といたします。

豊橋市副市長 金田 英樹

2 豊橋市友好訪問団の概要

(1) 訪問期間 令和元年12月17日(火)～12月19日(木)

(2) 訪問先 南通博物苑、南通城市博物館、
南通市人民政府庁舎(見学のみ)、武蔵精密工業(株)南通工場
南通中央創新区(国際会議場)、狼山

(3) 訪問団員

団 長 金田 英樹 豊橋市副市長

副団長 堀田 伸一 豊橋市議会副議長

団 員 古川 尋久 豊橋市市民協創部長

団 員 小林 玲奈 豊橋市市民協創部多文化共生・国際課主査

団 員 姜 上 通訳

3 訪問団日程

日程	時間	内容
12月17日(火)	13:02 14:18 16:30 18:30 19:00 ~21:00	豊橋駅発 中部国際空港着 深圳航空 中部国際空港発 (ZH8054 便) 深圳航空 南通空港着 ※現地時間 招宴 南通市泊
12月18日(水)	9:20 10:30 11:40 13:40 14:40 16:00 18:30 ~20:30	南通博物苑視察 南通城市博物館視察 南通市人民政府庁舎見学 武蔵精密工業(株)南通工場視察 南通中央創新区(国際会議場)視察 狼山視察 夕食会 南通市泊
12月19日(木)	12:00 15:30 16:10 17:37	深圳航空 南通空港発 (ZH8053 便) 深圳航空 中部国際空港着 ※日本時間 中部国際空港発 豊橋駅着

4 視察報告

12月17日(火)



【出発】

16時30分 出発する当月12月の1日から、週に4便中部国際空港に就航することとなった深圳航空に搭乗し、予定通り現地時間18時30分（日本との時差は1時間）に南通空港に到着しました。

入国手続きを済ませて出口に向かうと、南通市人民政府外事弁公室の潘強副主任と顧錢康所長が出口で既に待っていて、出迎えてくださいました。そして、用意していただいたバスに乗り込むと、2日目に予定されていた南通人民政府の表敬と招宴が初日に変更になったため、空港に着いたその足で招宴会場のホテルに急いで向かうこととなりました。南通空港は、市街地から20分ほどのとても市街地に近い空港で、すぐに会場となるホテルに着くことができました。途中の車窓の景色は、何重にも交差する高速道路のライトがとても華やかに見えると同時に、急速に拡大する中国経済の壮大さを早くも実感することになりました。

また、豊橋市との交流において関わりが深く、日本語も堪能な潘強副主任から、車中、南通市についての現在の状況や歴史等概要を聞くことができました。南通市は、現在の空港に替わってもっと大きな新空港ができる予定で、地下鉄1号線、



2号線が工事中であるほか、小さな南通と大きな南通があって、周辺の地域と合併しながら拡大してきた街だとのことでした。現在、急速に発展が進む南通市ですが、市という名称を使っていますが、ほぼ県レベルの行政単位だと考えれば、豊橋市とは比較にならない人口規模なのも少し納得でした。

【招宴】 19：00～



そうこうするうちに、会場となる文峰飯店に到着。

早速、徐新民副市長から歓迎の挨拶を受け、私たちは今日出会ったことで、もう家族である、家族と思って中国で過ごしてほしいと、熱烈な歓迎を受けました。

徐副市長のお話を拝聴する中で、南通市のさらなる発展を予感させたのは、『長江デルタ一体化開発プロジェクト』の紹介でした。

■長江デルタ一体化開発プロジェクト

『長江デルタ一体化開発プロジェクト』は、国家レベルのプロジェクトで、このプロジェクトに南通市に関わる記述がいくつか掲載されているそうです（※プロジェクトは、南通だけでなく、上海を中心に周辺27都市の開発を目指すものです）。

紹介された当該プロジェクトの内容は、大きく以下の3つです。

（1）南通新空港建設

上海デルタ都市圏の中核空港に指定され、現在の南通空港が移転し、規模も拡大されます。上海空港は、東の沿海部に位置し、中国の西側向けのフライトが多く、また、常に混雑しており、土地等の資源が不足しているため、新南通空港は西側路線を避け、北向けのフライトを担い、空中資源の一部としての役

割を果たす予定とのことです。

(2) 揚子江を渡る橋の建設

2本の橋がすでに整備済み。現在3本目の橋が工事中であり、さらに今後20年の間に、5本の橋が整備される予定だそうです。3本目の橋は、近日開通予定で、上が車、下が新幹線用であり、新幹線が開通すると、約40分間で上海・南通間を移動できます。上海と南通は、一つの都市圏のようになり、南通の立地条件は、ますます向上します。

(3) コンテナ専用の港の建設

これまでは、揚子江で荷揚げをしていましたが、南通の沿岸部（黄海）に海の港を建設し、荷を世界に運ぶことができるようになります。

徐副市長の歓迎の挨拶のあと、豊橋市からも金田副市長より表敬の挨拶をし、まず、今年度から始まった小学生の南通市訪問団への心温まる歓迎に感謝の意を伝え、さらに、これまで積み重ねてきた日中友好の絆を今後も深めていくことを確かめるとともに、豊橋の祇園祭りや豊橋が誇る三河港を紹介し、ぜひ豊橋を訪れてほしいと伝えました。

また、招宴の中で、国際交流担当者の王浦堅主任と、今後の交流について、特に新しく始まった小学生の相互交流の継続や市民レベルでの交流を発展させることについて互いに協力していくことを確認しました。



12月18日(水)

【南通博物苑視察】 9:20～



南通博物苑は、清末から中華民国初頭にかけて実業、教育等各種方面で活躍した張謇により 1905 年に設立された中国で初めての私設の博物館であり、北京よりも早いそうです。

広大な敷地に幾つかの建物に別れて南通市の自然、歴史、美術、教育などの文物や標本などが展示されています。南通の街の発展は、塩の精製から始まり、やがて綿の生産に移行、明の時代には織物が盛んになり、そして偉大なる張謇の登場を待って、同氏による様々な貢献により現在の都市基盤が作られることとなったようです。

広大な敷地に幾つかの建物



<製塩の様子>



<張謇氏の起業した製糸業で使用された
当時最先端の豊田自動織機>

■張謇によるまちづくり

中華民国の政権が台湾に移った後、張謇は官僚を辞め、立地条件の良さから南通でシルクの反物づくりを開始。ニューヨークに支店を作って海外に輸出し、成功を収めました。その後、原材料を作りたいと考え、農業に転換し、水道、灌漑技術を取り入れ、約20の会社を設立。さらに、輸出のための造船も開始。その後、銀行を設立し(1910)、油、製鉄、酒、米など、34種の会社を設立しました。



教育についても関心があり、一貫した教育が大事だとして、幼稚園から大学までの一貫校を設立。また、男子だけでなく、女子のための学校を設立したほか、一般の教育科目を学ぶ学校とともに、京劇、刺繍等の専門学校も設立しています。

さらに、社会貢献として、病院や老人ホーム、監獄での社会復帰支援を行う施設、警察の訓練学校なども設立しました。

また、観光客を呼び寄せるために、ホテルを建設し、商工会議所のネットワークを構築し、景観に恵まれていることから、観光スポットとしての公園、山（狼山）も整備しています。



【南通城市博物館視察】 10：30～

南通城市博物館では、南通市の近代化の軌跡を丁寧に分かりやすく説明していただきました。南通市は、周辺の市等と合併して市域を拡大し、同時に人口規模も飛躍的に増大しました。

南通市は、現在、4市1村4区（3区+経済技術開発区）で構成されていますが、もう少し詳しく言うと、小さな南通（3つの区：崇川区、港閘区、通州区からなる市轄区。人口300万人。中心は、崇川区。）と大きな南通（上記の南通市）と、街の認識には2種類あるそうです。



1980年代から2020年までの40年間と今後の都市計画について、パネルや、ジオラマ展示、巨大な映像とともに紹介され、そのダイナミックな変化と展示の迫力に圧倒されました。

日本の博物館というイメージとは異なって、南通市の発展を内外にPRするための言わば南通市紹介センターで、前日副市長が話してくれた開発予定が映像を交えて分かるようになっていました。



【南通市人民政府庁舎見学】 11：40～

スケジュール変更により、南通市人民政府の表敬は無くなってしまいましたが、せっかく南通市に来ているのでぜひ庁舎を見学したいと思い、昼食前に庁舎を訪問しました。



庁舎は、3つの棟で構成され、中央は人民政府（行政部門）と両端の建物は共産党議会（人民大会）などが使用しています。日本のように市民向けの窓口がある部門は、別の建物となっており、庁舎に入っ
てすぐのエントランスは大きなホールとなっていました。一般市民の来訪がなくお昼近い時間だったせい
か、中は静寂に包まれ、また空調なども効いていない様子でした。ただ、庁舎に入っ
てすぐに、『為人民服務』という看板が設置され、とても目立っており、中国において
も、やはり市民のためのサービスを提供するということを意識しているんだということを強く感じました。



【武蔵精密工業(株)南通工場視察】 13：40～

午後は、豊橋市に本社がある武蔵精密工業(株)南通工場を視察しました。



工場を訪問すると、モニターに大きく訪問団の名前があり、また、社員全員が立ち上がって出迎えてくださり、非常に嬉しく思うとともに、組織の結束力とまとまりを感じました。

まず、応接室で工場長に南通工場の概要を伺い、その後、実際に工場の中の様子を見せていただきました。1期工事が2014年末に完成し、2015年から南通市で操業を開始。さらに、現在工場の第2期の拡張工事が完成し、新たに操業を予定している段階だそうです。工場長からは、南通市と豊橋市が友好都市であることで、南通市が手厚く扱ってくれていると感謝の言葉をいただきました。



【南通中央創新区（国際会議場）視察】 14：40～

続いて、南通市が構想し、開発を進めている中央創新区の視察に向かいました。2016年から始まった5年間のプロジェクトで、現在3年目。インフラの整備はほぼ終わり、今後は人材等を集めて最終年のプロジェクト実現を目指して

います。広大な開発エリアを5年間で整備するというスピード感ある壮大な計画にまず驚かされました。



中央創新区は、面積 17 平方キロメートルで、革新発展エリア（研究所等を建設。多くの企業が創新区への進出を検討している。）、医学センターエリア（南通第一市民病院を建設中）、展示展覽エリア（国際会議場、展示場を整備。今年 10 月に完成し、既に供用開始されている。）と生活エリア（居住区）に分かれており、将来、南通発展の中核区となるよう展望しています。今後、ホテル、商業ビル、住宅、小中学校も建設予定で、地下鉄 1 号線、2 号線、新幹線の駅もあり、利便性の高い地区と考えています。南通市は、教育に力を入れている街であり、「中国の教育を見るなら江蘇省、江蘇省の教育を見るなら南通」と言われ、子ども、家庭にも良い環境です。また、研究所は、研究のみで実際の製造はしないので環境的な負荷も少なく、その点も魅力の一つとなっています。水と緑を配置した、完成後の街を是非見てみたいと思いました。

視察では、国際会議場の中の中央創新区のパネルやジオラマがある展示場でプロジェクトの説明を聞かせていただくとともに、大勢の人数を収容可能な会議場を実際に見せていただくことができました。



■国際会議場

会議室は、全部で6室。半分での貸し出しも可能。半分の規模での会議室だと、250㎡。大きな会議室は、5,000㎡で4,000人収容でき、1日利用するのに24万元（約400万円）かかるそうです。

【狼山視察】 16：00～

創新区視察の後少し時間があるとのことで、予定には有りませんでした。張謇が基礎を築いた南通市の観光地の一つ、狼山を視察しました。



狼山を登るのに700段くらいの階段を上がると、案内してくださる人民政府の顧さんから伺い、何件かの視察の後での体力的な心配や、夕方で暗くなると足元が見えづらくなることへの心配も有りましたが、訪問団全員で無

事登ることができました。

山頂から見える揚子江、運河、街並みの素晴らしい景色に感動するとともに、広い揚子江に浮かぶたくさんのタンカー等を見ながら、南

通市の街としての規模の大きさに改めて気付かされ、また、将来どれだけ発展していくのだろうかと思いを馳せました。



【夕食会】 18：30～

夜は、宿泊しているホテルのレストランで夕食会となりました。

1日中私たち訪問団を案内してくださった顧さんからは、南通市は友好都市は数多くあるが、豊橋市との友好を一番親密に感じている、とおっしゃっていただきました。また、連絡手段は、今はメールやSNSなどいろいろあるが、実際に行ってみないと分からないことがあり、実際に会うことがとても大事だと考えているので、ぜひ中国に来てほしい、とお話をされました。

実際、訪問団の一員として中国に来てみると、新たに知ることが多く、人民政府の方々にお会いして、訪問団全員が中国や南通市に親しみを感じ、さらに関心が高まったように感じました。

金田副市長は、「今年で、南通との友好交流は32年目。そこまで継続するのは、先人の努力があってこそそのことであり、長い交流の成果を次に引き継いでいきたい。」、また、堀田副議長は、「実際に中国に来てみて、印象が大きく変わった。日中友好を支援していきたいと思う。また、近い将来の南通がどれほど変化したのか、ぜひ確認しに再度中国を訪れたい。」と述べ、両市の友好の思いを確認し、名残惜しい最後の晚餐会となりました。

12月19日(木)

【帰国】

最終日は、飛行機が12時発のフライトであったため、ホテルで朝食を食べた後、そのままホテルから空港まで送っていただき、行きと同様に深圳航空にて名古屋に到着しました。この日も、顧さんに空港まで見送っていただき、最後のお別れをしました。

今回の訪問は、とても短い期間にぎゅっと凝縮した時間を過ごしたような気がします。そして、南通市との心の距離がぐっと近くなったように感じました。直行便が名古屋空港で再開して物理的にも近くなり、もっと多くの人々が南通市へ、普通に観光としても楽しめるようになると良いなと思い、また、行政としても、市民の皆さまにより一層の関心を持っていただけるよう取組を進める必要を感じました。

南通市は、揚子江、運河、山と景観に恵まれ、歴史等が分かる博物館もあり、食べ物もとても美味しかったです。南通の名物は海産物で、海、河、湖の幸を食べることができ、調理法としては、上海料理に近い南通独自のスタイルで旬の食材を使った健康的な料理です。果物や野菜も種類が豊富です。また、豊橋市とほぼ緯度が同じで、初日は豊橋より少し温かいかなと感じましたが、2日目は寒波が来るとのことで、一転してかなり寒い日となりました。気候的にはほぼ同じように思われます。

中部国際空港へは予定どおりに到着し、入国手続きを終え、名鉄に乗車。17時37分に豊橋駅へ到着し、無事今回の訪問を終えることができました。



5 友好訪問を終えて

豊橋市議会副議長 堀田 伸一

今回の訪問は、2泊3日、現実には1日目は夕方に着き、そのまま招宴。3日目は朝食をとってから直ぐに空港に向かい帰国する行程であったので、2泊1日と言っても良いほどの日程でした。

言い方は悪いですが、スケジュールをこなすのみのため、南通に行くのだと思って出掛けました。結論から言うと、全くの思い違いでした。

招宴での歓待、中でも徐副市長からいただいた「私たちは家族だから」との言葉には心を打たれ、その後の懇親の中で何度も笑顔で杯を重ねて過ごした心温まる時間は今でも忘れられません。

そして、2日目の実質1日は、本当に中身の濃いものでした。特に南通市の基礎をつくった張謇氏の功績にはとても感動し、氏の業績は、正に政はこうでなければならない、と思わずにはいられないものでした。午後には、いくつかの施設を視察し、これからの南通のまちづくりについて説明を受けました。国策もあり、近未来都市を絵に描いたような都市計画がなされており、素晴らしいの一言につきます。本当に数年後には、計画どおりになるんだろうと思いました。

既述のレポートにもあったように、近い将来もう一度訪れたいと思います。中部国際空港と南通空港との直行便もでき、交通の便も良いので、多くの市民の皆さんにも南通を訪れてほしいと思います。

短い滞在期間でしたが、本当に中身の濃い時間を過ごすことができました。すべての時間をともに過ごしてくれた顧さんをはじめ、訪問団の受入れに尽力して下さった関係者の皆さま、温かく訪問団を受入れて下さった南通市の方々感謝し、これからも本市と南通市が友好都市として末永く交流が続くことを祈念して筆を置きます。

平和・交流・共生の都市宣言

私たちのまち豊橋市は、市民自治の精神に立ち、人や地域、世界の国々とのつながりを大切に、" すべての人とともに生きる"、気概と誇りをもったまちづくりを進めています。

市制 100 周年を機に、私たちは、先人の英知と情熱の歴史を受け継ぎ、核の脅威のない真の恒久平和と世界の持続的な発展に貢献するため、広い分野にわたる交流と国際協力の取組みに努めます。

また、多様な文化や生活・習慣への理解を深め、自らの役割と責任を自覚するなかで、互いに信頼し尊重しあう心を持ち、人が輝き安心して生活できる地域づくりに取り組みます。

心豊かで笑顔あふれる豊橋を次の世代に引き継ぐため、私たち豊橋市民は、一人ひとりが、未来への夢と高い志を持ち、" 世界に開かれ、世界に友人をもつ豊橋"、" 平和を希求する豊橋" をめざすことを決意し、ここに「平和・交流・共生の都市」を宣言します。

平成 18 年 12 月 18 日

愛知県豊橋市

平成 18 年 12 月 18 日議決 告示 354 号

令和元年度 豊橋市友好訪問団報告書 令和 2 年 1 月発行
発行 豊橋市役所市民協創部多文化共生・国際課
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 番地
Tel (0532)51-2023 Fax (0532)56-2110
E-mail kyoseikokusai@city.toyohashi.lg.jp